

特集

「第2次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」がスタート 進めよう！ 男女共同参画社会の実現



通信員会議 ～公募による市民が通信員として参加しています～



こんにちは。市長の清水勇人です。さいたま市では、性別にかかわらず一人ひとりがお互いを認め合い、お互いを尊重しながら、個性と能力を十分に発揮し、ともに参画できる男女共同参画社会の実現を目指し、各種施策、事業を推進してまいりました。この度、これまでの取組と課題、また、急激な社会情勢の変化などへの対応を整理し、「第2次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」を策定しました。施策を総合的かつ計画的に推進するため、本プランでは、3つの重点事項と39の具体的な数値目標を定め、実効性のある計画とし、一層の展開を図ってまいります。市と市民そして事業者の方々との“絆”を大切に、協働のもと、「一人ひとりが生き生きと輝く個性を育む」まちづくりを推進するため、皆様のご理解、ご協力をよろしく申し上げます。

市長 清水勇人

さいたま市では、平成15年に「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」を策定しました。この条例に基づく初めての基本計画として「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」(第1次プラン)を平成16年3月に策定し、計画期間(平成16～20年度)が終了したことを受けて第2次プランを策定しました。

今号では、第2次プランを市民の皆さんにご理解いただくために、通信員さんと一緒にポイントを整理し、わかりやすくご紹介します。



9つの目標
計画期間 平成21(2009)～平成25(2013)年度

Q&A どうしてプランが必要なのですか？

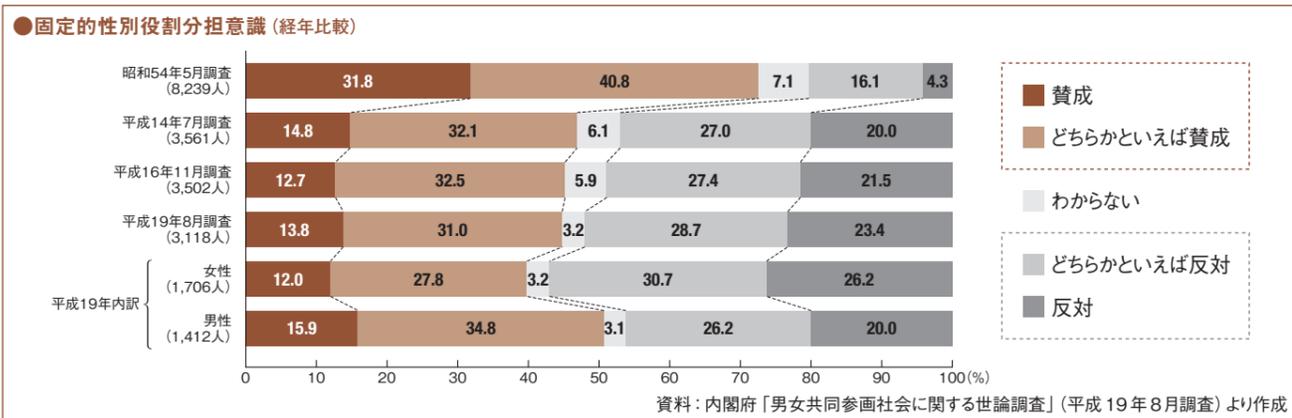
内閣府の調査によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担意識*について、平成19年度調査で初めて反対意見が賛成意見を上回りました。しかし、性別で見ると、女性は反対意見が上回っているのに対し、男性は賛成意見の方が上回っており、現在でも固定的な性別役割分担意識がまだ根深く残っている状況です。

また、さいたま市男女共同参画に関する市民意識調査(平成19年1月)によると、現在働いていない女性の就労意欲は、「すぐにでも働きたい」は20歳代・30歳代が約2割、40歳代は約3割、「将来は働きたい」は20歳代・30歳代が約6割、40歳代は約4割となっており、就労意欲が高いことがわかりました。

「男女共同参画社会基本法」施行から10年が経過し、一定の改善は見られますが、これら直面する課題を解決するために、国や県の施策と連携しながら、総合的かつ計画的に推進するため、第2次プランを策定しました。

*性別役割分担意識

一般的に、「男は仕事、女は家庭」というように、男性と女性では始めからその役割が異なり、それぞれにあった生き方があらかじめ決まっているという考え方をさします。



Q&A 「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」(第1次プラン)での取組状況や主な成果は？

苦情の申出・処理制度を開設

市民の皆さんからの男女共同参画に関する施策への苦情の申出に対し、中立、公正な立場に立った苦情処理委員が適切かつ迅速に処理する制度を設けました。
※詳しくは本紙P7を参照ください。

女性に対する暴力の根絶

配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス=DV)防止のため、啓発事業や相談事業に取り組んできました。“女性の悩み電話相談”は、さいたま市男女共同参画推進センターを中心に市内5か所で実施しています。平成20年度のDVに関する相談件数は、584件となっています。

男女共同参画推進活動の拠点づくり

平成16年5月に、活動の拠点となる「さいたま市男女共同参画推進センター(パートナーシップさいたま)」を開設しました。専門の相談員による女性のための相談、各種講座・イベントの開催、図書・行政資料・雑誌・ビデオ等の情報提供などを行っています。



パートナーシップさいたまの情報・資料コーナー
さいたま市大宮区桜木町1-10-18
シーノ大宮センタープラザ3階

審議会等委員への女性の積極的登用

第1次プランでは、審議会等委員における女性登用の目標値を35%に掲げて取り組みました。その結果、平成20年8月1日には35.4%となり、目標値を達成。政策・方針決定過程の場への女性の参画が促進され、多様な意見が市政に反映されています。

